

# デンマークにおける移民を対象とした公共図書館サービス\* —イスラーム系移民の図書館利用に焦点をあてて—

和気尚美(学籍番号 200921748)

研究指導教員: 吉田右子

## 1. 研究背景と目的

デンマークでは、労働力を補うために 1960 年代から 1970 年代にかけて受け入れてきた移民とデンマーク人との「統合」が課題となっている。デンマークの公共図書館は、この「統合」を進める拠点の 1 つになっており、移民に向けたサービスやプログラムを提供している。

本研究は、デンマーク社会への適応に課題が多いイスラーム系移民に焦点をあて、移民を対象とした公共図書館サービスを、図書館から提供されるサービスと移民利用者の利用状況の両側面から明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

研究方法は文献調査に加え、参与観察とインタビュー調査を採用し、質的調査法により調査をおこなった。定量調査を中心とする先行研究では明らかにされてこなかった移民や難民の図書館の利用状況や図書館に対する意識を、イスラーム系移民の母語での自発的な語りの中から引き出すために、アラビア語話者に対してはアラビア語を用いてインタビューを行った。被調査者から得られたインタビュー・データはコーディングの作業を通して、複数の被調査者を横断的に取り上げ、共通のコードが付与されたデータ間にどのような関係性が見られるかを分析した。

## 3. 研究結果

### 3.1. 文献調査の結果

文献調査では、移民がデンマークに流入して来た経緯や、デンマークのイスラーム系移民を取り巻く環境の変化、デンマーク政府の移民統合政策、デンマークの移民に対する公共図書館サービスの

全体像と体系を整理した。

その結果、デンマークの公共図書館は、人種や学歴、職業、年齢等を限定することなく移民の様々なライフステージにおける学びを支援していることが明らかになった。

また、統合図書館センター (Biblioteks Center for Integration) を中央センターとして設置し、各地域の公共図書館で提供される移民に対するサービスを支援していることが示された。図 1 は移民に対する図書館サービスを提供する体制を図式化したものである。

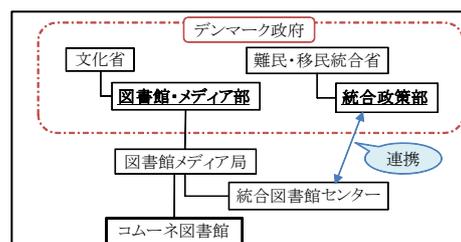


図 1. 移民に対する図書館サービスを支える体制

公共図書館は移民の統合を専門に扱っている難民・移民・統合省との連携によって移民に対する情報提供に取り組んでいる。

### 3.2. 参与観察の結果

コペンハーゲンにあるナアアブロー図書館において移民を対象に行われている活動に参加し、活動を実施している様子や集まる参加者の顔ぶれ、参加者同士のコミュニケーションの取り方等を観察した。観察した活動は「街角お母さんプロジェクト」「トーク・クラブ」「コンピュータ講習」の 3 つである。

「街角お母さんプロジェクト」では、主体的に活動する 14 名のイスラーム系移民女性が共通して青年期から成人期の間デンマークへ移住しており、自身の母国からデンマーク社会へと適応する体験を交えて相談に応じていることが明らかになった。

「トーク・クラブ」では、女性の参加率の低さが確

\*“Public library services for immigrants in Denmark: focusing on Islamic immigrants’ library uses” by Naomi WAKE

認できた。また移民女性の発言量の少なさも明らかで、男女別の活動の実施を検討する必要性が示された。

「コンピュータ講習」では、アラビア語とクルド語以外の話者は単発の参加にとどまり、継続的な参加にはなっていないという課題が明らかになった。

### 3.3. インタビュー調査の結果

ナアアブロー図書館を利用している利用者のうち、11名のイスラーム系移民に対してインタビューを実施した。インタビュー・データはコーディング作業を通して、①基本属性、②移住のタイプ、③デンマーク社会に対する意識、④母国の図書館、⑤居住地と公共図書館の利用頻度、⑥多言語資料のコレクション、⑦言語の獲得と図書館、⑧コンピュータ機器の利用、⑨イベント・講習会、⑩児童サービス、⑪統合担当員、⑫出会いの場としての図書館、の12の観点から分析を行った。

調査の結果、イスラーム系移民の中にはデンマーク社会での人々の交流の取り方や会話量の少なさに孤独感を感じている者がおり、疎外感や閉塞感を癒す場として図書館を利用していることが明らかになった。

インタビュー調査を通じて、イスラーム系移民の移民経験やデンマークで置かれている状況との繋がりの中で、被調査者の多様な人生における図書館利用が示された。

## 4. 結論

### 4.1. 移民に対するサービスを提供する体制

デンマークの公共図書館は移民を対象とした多くのプロジェクト期間を2～3年の短期に設定しているが、プロジェクトによっては第2段階を設けて継続的に経過を見守るべきものがある。また移民経験を持つ図書館職員による、図書館サービスを通じた移民支援は成果をあげているものの、そうした職員の雇用体制の確立が今後の課題として示された。

### 4.2. 資料コレクション

インタビューでは資料が古すぎることや、アラビア語やトルコ語にコレクションが偏重していることが指摘された。今後は多言語資料の継続的な管理、更新とマイノリティ言語に配慮したコレクションの形成が求められる。

### 4.3. イスラーム系移民のエンパワーメントの支援

デンマークの公共図書館は「新聞クラブ」、「コンピュータ講習」、「街角お母さんプロジェクト」等の活動を通して移民女性が自身の力でデンマーク社会に積極的に参加できるように支援している。

### 4.4. 図書館に対する認識の変化

イスラーム系移民の母国での図書館利用は学歴と密接に関係しており、高学歴な者ほど図書館を利用している傾向が見られた。しかし、デンマークでは学歴とは無関係に図書館を利用していることから、デンマークへの移住を通して図書館に対する認識が変化していることが明らかになった。

### 4.5. 場としての図書館

デンマークの公共図書館は「安息の場」や「異文化理解の場」として機能している。しかしながら、デンマーク人との接点が少ないことが課題で、今後は公共図書館がデンマーク人と移民との接点を積極的に生み出す場として機能していくことが求められる。

## 5. 今後の課題

本研究での被調査者は主に1世移民であったため、2世以降の移民も含めて移民の図書館利用を検討していくことが今後の課題である。

## 文献

- [1] The state and university library et al. Refuge for integration: A study of how the ethnic minorities in Denmark use the libraries. 2001,23p.  
[http://www.aakb.dk/files/file\\_attachments/30\\_juni\\_2010\\_-\\_1006/refuge.pdf](http://www.aakb.dk/files/file_attachments/30_juni_2010_-_1006/refuge.pdf) (accessed 2010-09-24)
- [2] Elbeshausen, Hans; Werther, Charlotte. The intercultural encounter between Danish public libraries and ethnic minority users. New frontiers in public library research. Johansen, Carl Gustav; Kajberg, Leif. Scarecrow press, 2005, p.155-170.
- [3] 吉田右子. 北欧におけるマイノリティ住民への図書館サービス: デンマークとスウェーデンを中心に. 図

書館界. 2007, vol. 59, no. 3, p.174-187.